

平成 30 年度

学校運営に関する計画

大阪市立成南中学校

大阪市立成南中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成29年度の本校は、創立70周年記念行事を核とした生徒の主体的な活動を全教職員がサポートし、保護者・地域等からの支援も得ることで、生徒が生き生きと活動して成就感を得ることができた。結果、自信や自尊心、学ぶ意欲や積極性の向上に導くことができた。また、地域・保護者の協力が増えたことで、特に安心・安全の学校づくりが大きく進んだ。

大阪市教育振興基本計画を踏まえた中期目標実現に向けた、「子どもが安心して成長できる安全な学校の実現」については、認知したいじめは100%解消、暴力行為を複数回行う加害生徒は0人、「学校が楽しい」の肯定回答80%など、順調に推移している。ただし、全国学力学習状況調査「学校のきまりを守っていますか」の肯定回答91%は、特に今後の課題とする。生徒に寄り添う丁寧な聞き取りと指導を徹底し、校区小学校を含む関係諸機関との連携も進め、不登校生や様々な生活背景を抱える生徒にきめ細かに対応し、安心・安全で生徒が主体的・自律的に活動する学校づくりを一層進める必要がある。

「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」については、全教科でICT機器を活用した授業の実施、全教員による主体的に学ぶ授業づくりなどに取り組んだ。結果は各調査では未だ全国・府・市平均を下回る部分も多いものの、年々改善してきており、昨年度の年度目標を達成した項目も増えている。一層のICT機器の整備と活用を含めた授業改革の継続推進が必要である。一方、体力・運動能力の育成の面では、重点項目を中心にした取組が奏功し、全国調査の結果は全体的に向上している。今年度は課題を見直し、更に取組を進める。

昨年度校内で初めて調査項目に入れた「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」は、73%が肯定回答を示しており、これを指標として新学習指導要領の完全実施にむけ、主体的・対話的で深い学びにつながる授業創造を一層進めていきたい。更に、特別な教科 道徳について、これまでの人権教育で培ってきた、様々な情報に基づき自己の考えを深めるとともに他者の考えを踏まえて多面的に捉えられる心の育成を、新学習指導要領に示された読み物教材による22項目の内容を学ぶ授業の完全実施に生かしたい。

上記を踏まえ、学校が核となって生徒どうし、地域・保護者間、大人と子どもといった広範なつながりを大切にして「子どもが安心して成長できる安全な学校」を実現させる。そのため、小中一貫した教育に資するよう、生徒の交流等の小中連携行事や取組を増やし充実させ、中1ギャップの解消、不登校傾向の改善、学力・運動能力の向上等に資する必要がある。また、自然災害の発生を見据えた防災・減災教育も不可欠であり、授業を主体とした学習や校内での集団育成だけではなく、総合的な教育活動が求められている。この意味でも本年度は昨年度の創立70周年の節目で培った地域連携の深まりを生かすことができる。また、「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」には、まず生徒が「学校が楽しい」と感じ、学習への主体的な意欲を持つところから始まる。授業を中心に、学校でのあらゆる教育活動で生徒が生き生きと輝く学校づくりを推進していく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成 29 年度～32 年度の年度末校内調査において、学校で認知したいじめについて、毎年、解消に向けて対応している割合を毎年 100%、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 29 年度～32 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、毎年、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 95%以上にする。
- 防災・減災教育を推進し、地域・保護者とも連携していくことで、平成 32 年度保護者アンケート「子どもたちの防災意識が高まった」の肯定回答を 80%以上にする。
- 平成 29 年度～32 年度の生徒アンケート「学校が楽しい」の肯定回答を、毎年、80%以上にする。
- 校務支援システムを活用した生徒の情報共有や生徒を軸にした情報発信を、中期目標達成に生かせるよう効果的に行い、平成 32 年度校内保護者アンケートの「学校は家庭等との連携をよくしている」の肯定回答を 70%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 32 年度のチャレンジテストにおける標準化得点を 100(本市平均)とする。
- 平成 29 年度～32 年度の生徒アンケート「授業が分かりやすい」の肯定回答を前年度以上とし、32 年度に 70%とする。
- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を男女とも、平成 28 年度より 5 ポイント向上または全国平均レベルとする。
- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における生徒質問「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の肯定回答を、男子は全国平均、女子は大阪市平均にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- 年度末の校内調査において、「学校が楽しい」の肯定回答率を前年度以上にする。
- 校務支援システムを活用した生徒の情報共有や生徒を軸にした情報発信を、中期目標達成に生かせるよう効果的に行い、保護者アンケートの「学校は家庭等との連携をよくしている」の肯定回答率を前年度以上にする。
- 週 1 回の主任会議での不登校生や配慮を要する生徒に関する情報共有、学期に 1 度の特別

支援教育（SSE）委員会での支援を要する生徒に関する支援の課題と計画の検証に加え、個別の支援会議を必要に応じて持ち、個別の支援計画を活用する。

- 創立 70 周年関連行事で培った学校・家庭・地域の協力のもと、生徒の成長に資する活動を組織していく一環として、地域とつながる防災訓練や学校保健委員会等に積極的に取り組み、生徒自身の安心・安全に関わる意識高揚に生かしていく。
- 個別の生徒の課題への対応を強化するため、また、学力・体力の向上、集団育成の充実のためにも、小中一貫した教育に資するよう生徒の交流等の小中連携行事や取組を増やし充実させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。
- 校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

学校の年度目標

- 年度末の校内調査（学校評価用生徒アンケート）で「授業が分かりやすい」の肯定回答を前年度以上とする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、「上体起こし」と「反復横跳び」の平均の記録を、それぞれ前年度より向上させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査における生徒質問「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の肯定回答を前年以上とする。

3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】 全市共通目標(小・中学校) ○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。 ○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 学校の年度目標 ○年度末の校内調査において、「学校が楽しい」の肯定回答率を前年度以上にする。 ○校務支援システムを活用した生徒の情報共有や生徒を軸にした情報発信を、中期目標達成に生かせるよう効果的に行い、保護者アンケートの「学校は家庭等との連携をよくしている」の肯定回答を前年度以上にする。 ○週1回の主任会議での不登校生や配慮を要する生徒に関する情報共有、学期に1度の特別支援教育(SSE)委員会での支援を要する生徒に関する支援の課題と計画の検証に加え、個別の支援会議を必要に応じて持ち、個別の支援計画を活用する。 ○創立70周年関連行事で培った学校・家庭・地域の協力のもと、生徒の成長に資する活動を組織していく一環として、地域とつながる防災訓練や学校保健委員会等に積極的に取り組み、生徒自身の安心・安全に関わる意識高揚に生かしていく。 ○個別の生徒の課題への対応を強化するため、また、学力・体力の向上、集団育成の充実のためにも、小中一貫した教育に資するよう生徒の交流等の小中連携行事や取組を増やし充実させる。	

○安全で安心できる学校、教育環境の実現

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学期に1回のいじめについてのアンケートと教育相談を通して実態を把握し、学校いじめ防止基 指標 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校のきまり、特に時間を守り、落ち着いて学習に取り組むことができるように指導し、生徒の自律心を高める。始業までに学習準備を完了し、チャイムと同時に授業を始められることをめざす。 指標 学校評価アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。	
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 週に1回の全校集会、学年集会での講話を通して、他の人の気持ちや公共物を大切にする意識を養う。生徒の実態を把握し、生徒理解を深めるために教育相談を二、三学期に1回ずつ実施する。 指標 平成30年度末の校内調査において、暴力行為を行う加害生徒数を前年度より減少させる。	
取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 指標 ①平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。②不登校や配慮を要する生徒の支援会議を必要に応じて持ち、個別の支援計画を作成する。	
取組内容⑤【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 昨年度の防災訓練での課題を生かし、緊急時に対応できる放送設備の改善と防災訓練を実施する。 指標 放送設備の更新・防災訓練の実施	
取組内容⑥【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 警察署、消防署等との連携により被害防止プログラム・防犯教室等の研修会を充実させる。 指標 警察署、消防署等との連携により被害防止プログラム・防犯教室等の研修会の実施	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
次年度への改善点	

○ 道徳心・社会性の育成

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 年間指導計画に基づき、道徳の授業を実施。「私たちの道徳」や副教材などを活用し、 <u>内容22項目を網羅するように、各学年で教材作りに取り組む。</u> 指標 標準授業時数を確保し、内容22項目に基づいた公開授業を年に2回以上行う。		
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 高等学校の進学情報等、進路を考えるために必要な情報を視覚的に得ることができる学校環境を整備し、 <u>生徒の主体的な進路選択に資するとともに、系統的なキャリア教育を推進する。</u> 指標 学校評価アンケート「学校で将来・進路について考える機会がある」の肯定回答を前年度の65%から70%にする。		
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 「道徳」授業を確立したうえで連携する人権教育を通して、道徳心・社会性を育成するため、これまでの指導体制・指導システム、及び指導内容プログラム(外部講師の招へいを含む)などを、1年かけて精査・再構築し、実践していく。 指標 「全国学力・学習状況調査」の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答える生徒の割合を大阪市の平均以上にする。		
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 生徒の主体的な学びを引き出すために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境の整備を啓発する。 指標 インクルーシブ教育に関する教員研修を実施し、実施後アンケートで肯定回答95%以上にする。		
取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 芸術鑑賞会を実施し、豊かな情操をはぐくむ。 指標 芸術鑑賞会後のアンケートで、肯定回答を90%以上とする		
取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】 音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出のため、吹奏楽部活動を充実させ、校内行事での演奏のほか、西成区民まつり、西成警察交通安全、大阪市マラソン、西成フェスタ、校下小学校や幼稚園との交流等に出演する。 指標 年間8回以上の演奏の機会を確保する。		
取組内容⑦【施策2 道徳心・社会性の育成】 卒業式や入学式で、生徒が主体的にかかわり、儀式的行事を趣旨を含めて理解し、集団の中にある自分を認識できる社会性の育成を図る。 指標 学校評価アンケート「式典行事にきちんと参加できた」の肯定回答を前年度以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
【取組進捗状況】について		
次年度への改善点		

○ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 校門横の掲示板に図書室の本の紹介をする。 指標 年間5回以上掲示する。		
取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 校務支援システムを活用した生徒の情報共有や生徒を軸にした情報発信を、中期目標達成に生かせるよう効果的に行う。 指標 学校評価アンケート「学校は家庭・地域との連携をよくとっている」の肯定回答を70%以上にする。		
取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 吹奏楽部活動で、西成区民まつり、西成警察交通安全、大阪市マラソン、西成フェスタ、校下小学校や幼稚園との交流等に出演し、地域との連携を推進するとともに、小中連携の充実に貢献する。 指標 校下小学校でのアンケート「演奏会を通じて、中学校に興味を持った」の肯定回答を70%以上にする。		
取組内容④【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 創立70周年関連行事で深まった学校・家庭・地域の協力関係を生かし、地域とつながる防災教育や体験学習、小中一貫した教育に資する様々な小中連携等の充実に図り、生徒の意欲や成就感、防災や地域貢献の意識を高める。 指標 学校協議会で地域連携・小中連携行事の効果検証を行い、「推進できた」の総意を得る。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
【取組進捗状況】について		
次年度への改善点		

大阪市立成南中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標(小・中学校) ○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。 ○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。 ○校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 学校の年度目標 ○年度末の校内調査(学校評価用生徒アンケート)で「授業が分かりやすい」の肯定回答を前年度以上とする。 ○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、「上体起こし」と「反復横跳び」の平均の記録を、それぞれ前年度より向上させる。 ○全国体力・運動能力、運動習慣調査における生徒質問「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の肯定回答を前年以上とする。	

○子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組＝各教科

① 国語科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 漢字や仮名遣い、文法学習などを繰り返し行い、基礎学力などの充実に努める 指標 チャレンジテストの「読解の記述式」の無答を前年度より減らす。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 1年生から作文力、発言力をつける取り組みに着手する。聞き取りテスト、ビブリオバトル、ロールプレイング、およびICT機器の活用など、さまざまな方法で力を伸ばす。 指標 学校評価アンケート「学級の友達と話し合い、自分の考えを深め、広げたりする」の肯定回答を前年度以上にする。	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 授業中、全員が答えられる発問を取り入れ、積極的に授業に取り組めるよう工夫する。 指標 学校評価アンケート「授業が分かりやすい」の肯定回答のポイントを前年度より増やす。	
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 年間を通じて家庭での宿題、授業で漢字テストを実施する。 指標 宿題を年間で50回以上出し、その提出率を90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

② 社会科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学習内容を定着させるため、単元終了後の確認テストや、宿題など課題を多くだし、個々の学習能力を高め、得点向上のために取り組む。 指標 チャレンジテスト標準化得点にかかる向上をはかるため、現3年の平均正答率を前年度以上とする。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 主体的・対話的な深い学びにつながるよう、グループで話し合う授業に取り組むようにする。 指標 校内調査の結果、「学習内容の習得」の観点(または学校独自の観点)を肯定回答の割合が前年度以上とする	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 分かりやすい授業をめざし、ICT機器の活用や、発問、教材研究の工夫を行う。 指標 校内調査「興味・関心・意欲の向上」の項目において、肯定回答の割合が前年度以上とする。	
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 家庭学習定着に向けて、宿題をだし、長期休業中の課題は、興味関心の動機づけになるような工夫されたものを出す。 指標 宿題を年間 50回以上だし、長期休業には新聞作成などの課題を出す。その提出率を90%以上とする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

③ 数学科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 個々それぞれの学力に応じて問題を提示し、学力の向上を図る 指標 チャレンジテストの結果が、経年比較で、前年度よりも向上することとする	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 1つの問題に対して話し合う時間を設け、お互いに協力し合って理解を深め合う 指標 各学期ごとに数学科でアンケートを行い、結果が肯定回答60.0%以上まで向上することとする	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ICT機器、教具などを活用し、視覚的な理解ができるよう工夫する。また、各学年で少人数分割・習熟度別授業(1学期は2年生、2学期は3年生、3学期は1年生で実施)を行い、個々の学力向上を図る。 指標 各学期ごとに数学科でアンケートを行い、結果が肯定回答70%以上まで向上することとする	
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 きめ細やかな指導をするため、各学年で少人数分割・習熟度別授業(1学期は2年生で、2学期は3年生で、3学期は1年生で実施)を行い、個々の学力向上を図る。 指標 分割・習熟度別授業を、1学期に50時間、2学期に60時間、3学期に30時間行う	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

④ 理科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 前年度の学習内容を積極的に授業で取り入れる。また、過去の問題から無回答が多く見られたので、減らすよう声掛けを行う。 指標 前年度より、チャレンジテストの標準化得点を上げる。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 実験や日々の学習の中で、主体的・対話的で深い学びを取り入れる。発問やワークシートを工夫する。 指標 校内調査の結果、「学習内容の習得」の観点(または学校独自の観点)で肯定回答70%以上にする。	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 分かりやすい授業づくりのために、実験を行ったり、ICT機器を積極的に使ったりして、興味・関心を高める授業づくりを行う。 指標 校内調査の結果、「興味・関心・意欲の向上」の肯定回答を70%以上にする。	
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 単元ごとに実験を行う。また、教科書に掲載されている実験以外にも、生徒の興味関心を引き出すための実験を計画する。 指標 理科室の使用を、年間150回を超えるようにする。	
取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校区小学6年生を招いた授業で理科への興味関心を高める実験観察を取り入れた授業を行い、小中連携に貢献する。 指標 参加児童へのアンケートで「体験授業で中学校での生活が楽しみになった」の肯定回答を70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

⑤ 音楽科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 グループでの意見交換やICT機器の活用などを通じて様々な音楽や音楽に対する他者の感じ方考え方に触れさせる。 指標 校内調査「興味・関心・意欲の向上」の項目において、肯定回答の割合が前年度を上回る。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 合唱や合奏などの体験を通して、表現に対する自分の明確な考えを持てる生徒を増やす。 指標 校内調査「学習内容の習得」の肯定回答の割合が前年度を上回る。	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校区小学6年生を招いた授業で音楽科への興味関心を高める器楽合奏を取り入れた授業を行い、小中連携に貢献する。 指標 参加児童へのアンケートで「体験授業で中学校での生活が楽しみになった」の肯定回答を70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

⑥ 美術科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 制作の手順や道具の使い方をわかりやすく伝えるためにICT機器を活用する。 また、美術の得意な子どもから苦手な子どもまで取り組めるように、課題の設定を工夫する。 指標 校内調査「学習内容の習得」の項目において、肯定回答の割合が前年度を上回る。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 グループでお互いの作品を鑑賞し、良い点やアドバイスをを行う。 指標 各学年、学期で1回以上行う。	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校区小学6年生を招いた授業で美術科への興味関心を高めるICT機器を活用した授業を行い、小中連携に貢献する。 指標 参加児童へのアンケートで「体験授業で中学校での生活が楽しみになった」の肯定回答を70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

⑦ 技術・家庭科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定回答向上のための取組として、ICT機器の活用や協同的な学習を取り入れた授業を、年間35時間程度行う。 指標 校内調査の肯定回答が80%以上とする。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定回答向上のための取組として、習得した知識や技術を生活において実践しようとしたことができたか、自己評価や相互評価をさせる。 指標 校内調査の肯定回答が80%以上とする。	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定回答向上のための取組として、材料や用具、機器を大切に扱い、安全にも留意しながら作業する力を養う。 指標 校内調査の肯定回答が80%以上とする。	
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定回答向上のための取組として、授業の準備物の徹底を図り、忘れ物をする生徒が0人の授業を増やす。 指標 校内調査の肯定回答が80%以上とする。	
取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校区小学6年生を招いた授業で技術・家庭科への興味関心を高める簡単な実習を取り入れた授業を行い、小中連携に貢献する。 指標 参加児童へのアンケートで「体験授業で中学校での生活が楽しみになった」の肯定回答を70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

⑧ 英語

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 反復練習により基本文型の徹底を図り、小テストで単語・重要構文の定着を図る。 指標 現3年を2年時、現2年を1年時のチャレンジテストの結果と比較、現1年は前年度の1年の結果と比較し、昨年度以上とする。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 コミュニケーション能力の向上のために、ペアワーク、グループワークを取り入れ、C-Netとの言語活動の充実を図る。 指標 授業アンケート「学級の友達と話し合い、自分の考えを深め、広げたりする授業だと感じる」の項目で、肯定回答70%以上にする。	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ICT機器及び視聴覚教材の活用を図り、英語に対する興味・関心を高める。 指標 校内調査「興味・関心・意欲の向上」の項目で、肯定回答70%以上にする。	
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎・基本的な内容を確実に定着させるため、タブレットを使用した演習を行う。 指標 タブレットを使用した演習を全学年で年3回以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

⑨ 自主学習支援

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 これまでのテスト前学習会や長期休業中の補充学習を拡充し自主学習を定着させるため、「学びサポーター」を活用し、放課後自主学習教室を開設する。 指標 放課後自主学習教室を年間35回以上開設する。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 各教科で計画的に宿題や自主学習課題を設定し、こまめに点検活動を行う。 指標 学校評価アンケート「家で学校の宿題や授業の復習をしている」の肯定回答を前年度以上とする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

○国際社会において生き抜く力の育成

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 英検IBAに向け、各学年英検3,4,5級レベルの問題に取り組む。 指標 現3年を2年時、現2年を1年時の英検IBAの結果と比較、現1年は前年度の1年の結果と比較し、昨年度以上とする。	
取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 2年間の校務支援システムの研究校としての実践で培ったスキルを生かし、ICT機器を積極活用した授業を公開していく。 指標 全教科でICT機器を利用する。タブレットの利用を去年度比1.1倍にする。	
取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 授業を通じてプログラミングの基本的学習を行う 指標 2年生で6時間取り組む	
取組内容④【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 すべての学年で、視聴覚教材や講話・生徒同士の交流などを通じて、多文化共生教育を推進する。 指標 3学年で、それぞれ2時間以上の取り組みを行う	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

○健康や体力を保持増進する力の育成

①保健体育科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 補強運動として、腹筋・背筋・腕立て伏せに加えて、筋持久力・敏捷性を強化するトレーニングやストレッチを取り入れる。 指標 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「上体起こし」と「反復横跳び」の平均の記録を、それぞれ前年度より3ポイント向上させる。	
取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 生涯において運動の大切さを理解させ、今後の生活にも生かせるような授業を行う。 指標 運動やスポーツに対する意識調査において、「あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切ですか」の項目で、肯定回答の割合が80%を上回る。	
取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ICT機器やグループ学習を積極的に取り入れ、意見交換をすることや教えあいの場を多く設けるような授業展開に努める。 指標 校内調査「授業が分かりやすい」の項目において、肯定回答の割合が80%を上回る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組進捗状況】について	
次年度への改善点	

② 健康教育

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 生徒保健委員が主体的に取り組む学校保健委員会に取り組み、保護者・地域の参加者も募る。		
指標 生徒保健委員のメンバーのアンケートで「学校保健委員会の取組を通じて健康・安全に関する理解が深まった」の肯定回答を70%以上にする。		
取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 食育の推進として保健だよりや食育だよりを発行することで、生徒や保護者の食への興味・関心を高め、栄養に富んだ食事を意識させる。		
指標 年度末の校内調査にて、「食事内容に注意を払うようになった」の肯定回答生徒を70%以上		
取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 中学校給食の充実に向けた総合的な取組(健康教育部)として、給食のポスター等で献立を配付し、そのメニューから旬の食材に含まれる栄養素がどのように自分の健康に結びつくのかなど興味を持たせる。		
指標 年度末の校内調査にて、「正しい知識と望ましい食習慣を身につけ、心身ともに健康で自分の食生活の意識向上を図るようになった」の肯定回答生徒を70%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
【取組進捗状況】について		
次年度への改善点		